

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1997 5・6

善意の力を出し合った2日間
売り上げ金をユニセフに寄託

Da1997実行委員長 白石 勝彦

Da1997

DESIGNERS AID / CHARITY WEEK

「阪神・淡路大震災」への義捐金を贈るため、JID
会員を志によって実施された「Da1995」について、今
回実施された「Da1997」は、去る4月19日(土)~4月20
日(日)リビングデザインセンターOZONEの特別協力に
より実施されました。今回の募金は「恵まれぬ子供達
へ」の救援活動として、創立50周年を迎えたユニセフ
(国際連合児童基金)への寄付を目標としました。

JID会員をはじめ、各友好団体会員からのご協力によ
り、2日間の短期間でしたが、大盛況の内に終了するこ
とが出来ました。ご協力を感謝いたします。

結果は次のとおりです。

参加者及び物品数の集計

	JID	後援団体他	合 計
物 品 提 供 者	44人	76人	120人
物 品 数	1137点	556点	1693点
ボランティア	29人	—	29人

「目 次」

特集／「DESIGNERS AID 1997」

●DESIGNERS AID 1997の2日間	1
●DESIGNERS AID 1997/4月19日	3
●DESIGNERS AID 1997/4月20日	4
●DESIGNERS AID 1997への協力	5
●DESIGNERS AID 1997とOZONE	5
●DESIGNERS AID 1997の今後の展開	6
●「IFI'97アイルランド」／2	7
●受託事業の参加希望登録から	8
●「ジャパンデザイン推進会議」と 「デザイン産業研究会」の成果と今後	8
●平成8年度・第6回理事会報告	9
●JID NEWS関東	12
●JID NEWS中部	14
●JID NEWS関西	16
●JID NEWS九州	18
●浅田弘之さんを悼む	20
●上辻謹一さんを悼む	20
●新入会員の紹介	21
●会員の異動	23
●暮らしにもっとデザインを	24

特別協力及び後援団体

特別協力	リビングデザインセンターOZONE
後援	(社)インテリア産業協会
	(社)日本インダストリアルデザイナー協会
	(社)日本クラフトデザイン協会
	(社)日本グラフィックデザイナー協会
	(社)日本サインデザイン協会
	(社)日本ジュウリーデザイナー協会
	(社)日本ディスプレイデザイン協会
	(社)日本パッケージデザイン協会

2日間の売上の合計は766,946円となり、会場に設けた募金箱などの10,159円を合わせて777,105円が集まりました。そしてその中から、最小限の経費を差し引き、最終的寄付金額は合計738,806円となりました。これらの貴重な募金は、去る6月16日、JID事務局長が(財)日本ユニセフ協会へお届けいたしました。

なお、印刷費・展示費などの主要経費は、(株)リビングデザインセンターから拠出して頂きました。

「Da1997」の主旨をご理解頂き、出品・参加してくださった多くの方々に、この誌面をお借りして、厚く感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

Da1997 JIDボランティア・メンバー

◎委員長 ○副委員長

荒居 康明	関口 英子	深谷 明恵
宇田 比呂美	高川 恵三郎	船橋 千枝
岡部 史子	富岡 悠紀子	○堀川 始
鎌田 博子	土橋 隆子	松居 明夫
木村 戦太郎	烏井 貴正	村元 俊子
栗原 満直	道明 三千代	森谷 延周
○小松原ひろみ	中川 千早	安松 一雄
斉藤 武行	中田 重克	山下 博之
阪井 良種	長谷川 隆之	横江 禎子
◎白石 勝彦	日方 和城	計29名
		(50音順)



展示された商品とお客様の賑わい



準備中／中央は実行委員長の白石勝彦会員、懸垂幕は自作



好評の似顔絵コーナー／右は富岡悠紀子画伯（会員）



「高所作業車」を使用、吹抜けの空間に懸垂幕をつり下げ
ているところ（OZONE の塚本さんの協力を得ました）

DESIGNERS AID/4月19日

関東事業支部会員 栗原 満直

「Da 1997」に、少しでも役立とうとする気持とはうらはらに、私事スケジュールには余裕なく、結局4月19日(土)の休日のみのお手伝いになってしまった。午前10時過ぎ、皆さんの努力により多数集められた品物は、展示効果も考えてアイテム別に陳列されていた。金庫番は関東事業支部長の阪井さん、レジは無く現金取引、昔のバツ屋の親父さんを思い出す。隣りに今回の実行委員長白石さんが連日の準備のためか、疲れた表情ながら会場へチェックの目、私もバッジをつけ販売へ、思わず、「いらっしやいませ」と職業病が出た。着実に売れて行く。少し落ち着いてから、自分なりに会場を再チェック。椅子・絵画・陶器・布・アクセサリーなど、まさにデザイナーが持ち寄った骨董市のごとき情景だ。私も何点かに目をとめる。丁度仕事で小物を探していたので、この会場で仕入れ？良い物を安く仕入れて適正価格で売る…これが商売の基本。午後に入り会場にもぎやかさを増す。そんなとき会員の富岡悠紀子さんがやって来た。昨年同様、「似顔絵描き」のサービス。1枚描いて¥1000円は安い！まずは会場のスタッフの何人かを画き上げて行く。私も席に着かされ、少しタレ目の顔を上

手にパッチリと描き、仲々のサービス。そこへアベック、どうぞと勧めると、「2人一緒に描いてくれないか」という、思わず富岡画伯が「2人一緒に始めてだわ」と言いながらも、さすがにプロ。画用紙を横に、見事2人を一画に、2人だから¥2000円かと思ったら、富岡さん「¥1500円頂きます……」何と、この日だけで10人以上を描き上げた。4時からオークション。会場のめばしい商品を予めセレクト、吉良さ

んの椅子や中川さんのタペストリーそして白石さんの進駐軍の食器（デザイン職人四方山話で話題のしろもの）など数点。ちなみに進駐軍の食器は富岡さんと私のせり合いとなったが、富岡さんが譲って下さり、今は私が運営している「東山田郷土資料館」に展示しています。しめてこの日の売上げは¥389,750円ナリ。店じまい後、翌日の商品補充を済ませる。疲れたが有意義な一日だった。皆様本当にお疲れ様でした…。

DESIGNERS AID/4月20日

Da1997副実行委員長 小松原ひろみ

チャリティー2日目、今回は2日間だけなので今日中に完売できるかなど、とても心配でした。しかしOZONEの関係者の方から休日は午後2時頃からは本番と伺い、交替で食事に行き、戻って来ると、人の流れが出来いたので安心しました。

そして、お買い上げ頂いた方々にユニセフの活動パンフレットを差し上げ、「売り上げ金はここに寄付させて頂きます」と申し上げながら、辛い思いをしている子供たちが1人でも多く健康に育ってくれることを願いながら、頂いたお金の重みをずっしりと感じました。

一方、「似顔絵描きコーナー」では、次々と子供達や



会場入口／右は今回のための提供ポスター
D:下岡 茂さん(JAGDA会員)、左はユニセフPRパネル

若いカップルが、少し緊張した面持ちで、会員の富岡悠紀子さんとおしゃべりしながら似顔絵を描いてもらっている。出来上がった絵をニコニコしながら大切に持ち帰る姿を見ながら、本当に素晴らしいボランティアだと感謝の気持ちで一杯になりました。

また午後4時には、ハンマー音を合図に無事オークション終了、それぞれお目当ての品を抱え、賑やかな雰囲気の中に、お買い上げ頂きました。

お陰様で、皆様から出品して頂いた商品をほぼ売り切り、残りを(株)インテリア産業協会のご厚意で、「ハウスクエア横浜」で行う、「インテリアフェスティバル'97」のチャリティーに回して下さるとのこと。早速片付けが始まる。常に進んで動いて下さる白石委員長の姿。そして誰もが率先して動く様子は本当に気持ちよく、皆の力でまたたく間に撤去・梱包を行い、予備室に搬入し残務を完了。

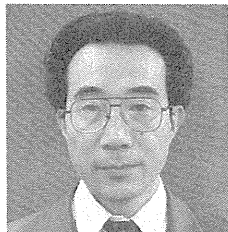
すっかり喉が乾いてしまったことを理由に、新宿の某所に移り、汗を流した皆さんとワイワイ楽しく和やかなひとときを過ごし、とても爽やかな気持ちで帰路につきました。

品物をご提供下さった皆様、毎日お忙しい中参加して下さいました皆様、本当にありがとうございました。

DESIGNERS AID 1997への協力

賛助会員・(株)インテリア産業協会 河野 勝彦

毎年、当協会（関東甲信越支部）では、生活者にインテリアに対する理解と関心を高め、トータルインテリアの普及を目的に「生活者のためのインテリアフェスティバル」を開催してきた。



今回、このフェスティバル事業の中で福祉活動の一環として「チャリティ販売」を企画してきたが、初めての試みのため、当初、企画内容がまとまりきれなかった。

こんな中で、「DESIGNERS AID 1997」への協力依頼を頂いたことで、チャリティー活動の意義を再確認すると共に、ユニセフ（国連児童基金）への募金を主旨とした当協会の運営方法を確立することができた。

「DESIGNERS AID 1997」に対しては、充分とは言えないが、当協会企業商品の提供を行うと共に、OZONEで終了後のDESIGNERS AID 商品を引き継ぎ、4月26日・28日・29日の3日間、「ハウススクエア横浜」で同様の趣旨で実施した。この3日間の募金額は657,060円であった。

これまで、当然ながら当協会の活動は、インテリアの啓蒙としての展示・セミナーなどの提案活動が主体であるが、今回の取り組みを通して、改めて公益法人としての対社会活動の役割を認識することもできた。ただ準備期間が短かったこともあり、国際協力としてのユニセフ募金の意義やボランティア活動の理解が充分とは言えない面もあり反省の一つでもある。今回、「DESIGNERS AID 1997」と連携して活動できたことは、誠に有意義なことであり、改めてお礼を申し上げたい。

DESIGNERS AID と OZONE

賛助会員・(株)リビングデザインセンター 塚本 文雄

一昨年に引き続き、2回目の開催となる今回の「DESIGNERS AID '97」が盛況のうちに終了、予定を上回る寄付金額を達成されたとのこと、誠にありがとうございます。



このAIDは、さまざまな国や自然、産業に関わるデザイナー自身が、世界中で起こる自然災害などの現状や発展途上国が抱えるさまざまな問題をとらえ、「何かできることがあるはずだ」「何か役に立ちたい」という思いの高まりのもと、社会貢献の在り方の一つとして発足されたということで、その活動はデザイナーや各業界に一石を投じるものであり、来館者にもメッセージが伝わったものと存じます。

OZONEにおいてもチャリティイベントを開催する機会があることから、その準備・運営の大変さを実感しており、今回、メンバーの方々が貴重な時間をさいてご協力されている姿は感慨深く、白石実行委員長・森谷事務局長をはじめ各委員の方々のご苦勞に敬意を表します。

OZONEにとりましてAID開催は、来館者にデザイナーたちの一品を購入できる嬉しさ、楽しさを与える



OZONE 6階～7階の吹き抜け部に下げられた懸垂幕

同時に、さりげなくチャリティを訴える手法に共感いたすと共に、館内の賑わいを醸し出して頂き感謝する次第です。

また、事前打ち合わせなどを通じて、多くのJIDの幹部の方々及び各ジャンルのデザイナー協会の方々とお近付きになれたことなど、その活動に微力ながらご協力できたことは非常に意義深いものでありました。

最後にAIDの次回開催はもちろん、JID諸活動の場として、貴協会とOZONEとの連携をなお一層強化させて頂けたら幸いと存じます。

DESIGNERS AID の今後の展開

Da1997副実行委員長 堀川 始

1995年1月の「阪神、淡路大震災」で、日本国中の人々が何か手助けをしなければと、ボランティア活動が、にわかに脚光を浴びようになり、そんな中で、デザイナーらしい社会的貢献のあり方として『DESIGNERS AID』が発足しました。

そして第1回「DESIGNERS AID 1995」の阪神、淡路大震災のチャリティー、第2回「DESIGNERS AID 1997」恵まれぬ子供達へのチャリティーと隔年で開催されました。

次回の第3回「DESIGNERS AID 1999」には、20世紀の最後を飾るにふさわしい活動が期待されます。

これまでの『DESIGNERS AID』は、主催団体の日本インテリアデザイナー協会と特別協力のOZONE、後援のデザイン7団体らの協力で成り立ってきました。今後は、もっともっと他団体との交流や関係を深める場として、広いジャンルのデザイナー達のボランティア活動としたいものです。

今回のテーマとしては、世界文化遺産の保護や森林保護、絶滅危機の動植物保護などが考えられます。また身近なゴミ問題や高齢者、障害者への支援といくつもあります。

『DESIGNERS AID』は現在のところ、通常の委員会活動では無く、有志が活動に名乗り出て行っています。従って自主的参加がないと、ことが運びません。次回の活動に興味を持たれる方は、本部・事業委員会ある

いはJID本部事務局へお問い合わせください。

皆さんの力によって、社会に貢献してみませんか…
…？。

新刊ご紹介 「環境をデザインする」

— 環境デザイン研究会 編 —

会員の清水忠男さんからの情報です。今年3月、ご自分が世話人となり、仲間と標題の本を上梓したとのこと。

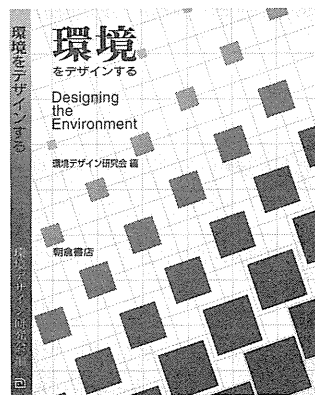
それぞれの領域で活躍中のデザイナーや研究者など、執筆にあたった研究会メンバーは18人。よ

りよい環境の形成という観点から、様々なデザイン領域の現状と可能性を解説しています。

この本の多様な展開の中に、環境をデザインすることの意味を理解することができるでしょう。

●(株)朝倉書店 定価 5,000円(本体) / B5版 201頁

(事務局長/森谷 延周)



お詫びと訂正

先日お届けしました1997～1998年「会員名簿」の一部にミスがありました。お詫びして、訂正させて頂きます。

ご面倒でも、お手元の名簿をご訂正ください。

「誤」

「正」

P.134 渡辺 和子 渋谷区佐々木 渋谷区代々木

P.162 佐々木恵子 FAX 06-941-2805 FAX 06-941-2804

In evolutionary terms
the artificial
environment is a
sudden new threat to
survival. What do the
senses make of it
and what is a place
any more.

IFI '97 Ireland

テーマ「A Sense of Place」

「IFI '97アイルランド」参加を含めたツアー 北欧のユニバーサルデザイン巡り

本部・国際委員会委員長 李 泰久

「IFI アイルランド '97」国際会議／9月26日(金)～28日(日)まで、余すところ3カ月を切りました。前号のJID NEWSで掲載させて頂いた会議の概要に引き続き、今回はこのアイルランド会議参加のツアーについてご案内いたします。

すでに皆様のお手元には、参加者へのご案内が届いていると思いますが、この誌面を借りて再度紹介させていただきます。

このツアーは、関東事業支部・国際委員会の主催で、9月21日(日)から30日(火)まで10日間、北欧とアイルランドを回るものです。ユニバーサルデザインというテーマで、コペンハーゲン、ストックホルムを回り、アイルランドでIFI会議に参加し、ロンドン経由で帰るというスケジュールです。

高齢者や身体障害者のためのというよりは、一歩進んで、誰のためにも良い施設や道具という意味での、ユニバーサルデザインの北欧の先進性を見聞することと、アイルランド会議のテーマである「心と体」に焦点をあて、ややもすると有害で混乱した環境から、人間性を取り戻

すことを再考しようという視点には、共通の、今最も重要といわれているメッセージが見えるように思います。

日本の現状と未来を考えますと、大変有意義な組み合わせのツアーであると確信しております。より多くの皆様の参加を期待しております。

国際会議参加コース

- 9月21日(日) 午前 東京・成田発
夕方 コペンハーゲン着
- 22日(月) 午前 ユニバーサルデザイン関連施設訪問
午後 コペンハーゲン市内視察
- 23日(火) 午後 コペンハーゲン発
ストックホルム着
- 24日(水) 終日 エルゴノミ・デザイン・グルッペン社訪問
ストックホルム市内視察
- 25日(木) 午前 スtockホルム発(ロンドン経由)
午後 コーク(アイルランド)着
夜 キラーニー着(専用バス)
- 26日(金) 終日 「IFI '97 アイルランド」
- 27日(土) 終日 「IFI '97 アイルランド」／オプショナル・ツアー
- 28日(日) 午後 「IFI '97 アイルランド」フェアウェルパーティー参加後キラーニー発(専用バス)
午後 コーク発
夜 ロンドン着
- 29日(月) 午前 ロンドン発
午後 コペンハーゲン着
コペンハーゲン発
- 30日(火) 午前 東京・成田着

予定訪問先リスト

●コペンハーゲン

1. SOPHIE HUS

高齢者用に造られたバリアフリーを取り入れた建物です。

2. MR. ERIK BAHN(ARCHITECT)

身体障害者用建築の世界屈指の建築家。一般の建築物と変わらないインテリアを、障害者用建築に実現しています。

●ストックホルム

1. GLOBEN CITY

レストラン、エレベーター、エスカレーターなど、身体障害者が利用しやすいように設計されたショッピングセンターがある街です。

2. AID EQUIPMENT CENTER

文具や道具の研究所で、身体障害者用のさまざまな道具を見ることができます。

3. MS. LENA LANDIN - LORENTZEN

身体障害者のための道具のデザインにおいて、スウェーデンで最も有名なデザイナーの1人です。

受託事業の参加希望登録から

本部・事業委員会委員 日方 和城

去る3月中旬、事業委員会より、全国の正会員に対して本部・受託事業、実行委員・参加希望登録をお願いしたところ、4月末までに全体で、56名の会員より回答がありました。支部毎では、関東41名・中部4名・関西10名・九州1名でした。項目ごとの結果は次の通りです。

1. 参加希望の業務

「調査研究開発・42名」が最も多く、次いで「イベント企画・31名」「出版企画編集・25名」そして「その他・19名」には、ファシリティ・マネジメント関連業務、デザインコンペの審査などもありました。

2. 得意分野

「インテリアデザイン・38名」が最も多く「プロダクトデザイン・25名」「教育・23名」「講演・21名」は、それぞれ僅かな差で続き、「環境デザイン・13名」「ディスプレイデザイン」、「建築」、「著作」が12名で同数、次いで「編集・9名」「テキスタイル・8名」「コンピューター・7名」で次第と少数回答になり、「語学（翻訳）」はゼロでした。「その他・7名」には、照明計画・パブリックアートなどもありました。

3. 受託事業に対するご意見

- 実行委員選出の公平性や決定の過程がオープンになることを期待。
- 受託事業を通して、JIDの社会的認識の向上が最も大切で、財務強化も大切ではあるが、内外に誤解を招か

ぬように。

- 個人では出来ない事業に興味がある。
- 全ての受託事業を公募にしては。

などなど、ほかにも貴重なご意見を頂き、有り難うございました。

受託事業は始まったばかり、まだまだ難題が多く待ち受けております。全て一刻も早く乗り越えねばならぬことばかりです、今後の受託事業には、今回の実行委員登録が活用されてゆく方針です。

「ジャパndeデザイン推進会議」と「デザイン産業研究会」の成果と今後

事務局長 森谷 延周

(財)日本産業デザイン振興会／デザイン人材開発センター主導のもとで運営されているもの2件。この5月、デザイン8団体関係者に対して、平成8年度の「成果報告会」が開催された。概要はつぎの通り。

1. 「ジャパndeデザイン推進会議」

デザインやデザイン団体の存在をどう高めるか、これをインターネットを通してプレゼンしたい。

同会議が現在、「デザイン」と「社会」を結ぶネットワークの構築の一端として、同振興会・デザイン人材開発センターと日本デザイン団体協議会（通称・デザイン8団体）との協同作業として推進しているもの。

平成8年9月1日、同センターは(財)日本グラフィックデザイナー協会の協力を得て、「ジャパndeデザイン」と呼ぶホームページを開設、以来、デザイン8団体推薦の23人のメンバー(JIDからは秋山修治・杉 富士雄・鳥井貴正の3会員)により、会議を重ねてきた。

平成8年度の成果は、とりあえずデザイン8団体の紹介に関するホームページを開設。将来的には、8団体6,600人の個人にアクセスできることを目標としている。

平成9年度は検索システムをつくるため、各団体の分担金の範囲で、8団体選出の推進委員会を設置して、一層の推進を図る。具体的には、「Who's Who」を計画、各団体所属の会員の氏名、連絡先などの情報提供や希望する各団体会員個人のホームページ（有料）を開設したいとしている。

デンマークの椅子 200 脚展

織田 憲嗣

昨年10月に、「デンマークの椅子」（光琳社出版・5000円）を出版した。この本は、14年間に及ぶデンマークの椅子の研究をまとめたものである。当初、360ページを予定した原稿であったが、“学生に買える本を”との考えから224ページのスケールとなった。そして、このたび、大阪の「ATC」において、この本の「出版記念展」を開催させて頂いた。

現在1000脚を超える椅子を研究用に集めたが、今回、その内の200脚を展示して、改めてデンマークの“モノづくり”のすごさに驚かされた。1つひとつ違うデザインなのに、全体としてのデンマークデザインのアイデンティティーが感じられたのは私だけではなかったのではないだろうか。

開催者側から伺ったところでは、学校関係の来場者が非常に多かったとのこと。また、それらの方達の会場での滞在時間が長く、観察が熱心であったことを知り、これまでの研究の在り方に自信を得ることになった。多くの関係者の方達には、この誌面をお借りして、深くお礼申し上げたい。本当にありがとうございました。



デンマークの椅子200脚展・会場入口左手

関西事業支部総会終わる

支部長 小宮 容一

去る5月16日午後6時より、大阪デザインセンター会議室にて、支部総会が開催された。平成8年度事業報告書、収支決算書、平成9年度事業計画(案)を全員一致で承認可決した。続く、平成9年度収支予算(案)の審議において、本部からの事業補助費が昨年の65万円から45万円(第29回通常総会資料)に減額となっている件に関し、多くの意見が戦わされた。その結果、これらの意見を「通常総会にて小宮支部長より代表して発言してもらうこと」の議決を加えて予算案を承認可決した。総会終了後、中華料理店に席を移し、賛助会員に多数加わって頂き、賑やかに懇親会を催した。



中華料理店で「懇親会」を開催



会場内の椅子のディスプレイ

平成9年度 九州事業支部総会報告

藤尾 栄徳

日頃の非協力のお詫びを兼ねて総会報告をまとめさせて頂くこととなりました。

今年度の総会は山永支部長の肝入りで、支部長の旧友が社長をされている「長崎ハウステンボス・JR全日空ホテル」で、リゾート気分での開催となった。参加者14名、委任状30名で、事務局の式次第に基づき、報告・承認と無事閉会することが出来た。

振り返ってみると、特にイベントにおいて「アジア世紀 2001年に向かう九州」、その中でも九州NO.1の吸引力を持つ拠点都市福岡との係わりにおいて、JIDの存在と力が強く問われた年であったといえる。支部長の反省の弁を借れば、

- ・取り組みに対するコンセンサス・コミュニケーション不足、その曖昧さから発生する諸問題に対しての処置の難しさ
- ・本部をたより、活動の慣れすぎからくるもどかしさ
- ・他団体との調整
- ・外郭団体ゆえの制約 等々



総会々場「長崎ハウステンボス・JR全日空ホテル」前にて



挨拶する「長崎ハウステンボス・JR全日空ホテル」社長

それぞれのイベントが盛会であったばかりに、心残りであるといったところが支部長の心の内であろうと、フォローしておきたい。また、担当会員の苦労はいかばかりだったか、心より皆様を代表してご慰労申し上げたい。

このような一連のイベントを体験し、反省に基づいてのことなのか、平成9年度の計画の基本コンセプトは、「交流」をキーワードとすることが提案された。①会員相互の交流 ②地域との交流 ③会員外との交流。

ところで今回の総会会場は、「東のT.D.L.、西のハウステンボス」と言われる西の果ての何もない所に出来た、全国3位の集客力を誇るテーマパーク隣接のホテルである。

この一連の町づくりの発想は、失敗しても成功しても、ノウハウとなる物作りを日常業務にしている私には恐ろしくて尻込みする位の計画に思える。全く新しい都市に観光都市長崎市以上の6つのホテルを有し、それぞれのホテルがすみ分けして、計画以上の好業績を維持している。そしてただ単にハウステンボス観光目的の宿泊のみでなく、ホテル本来の機能を売り物としている。具体的に言えば昨年340組のブライダル受注実績、それも1/2が一般、1/2がリゾート客とお聞きした。

本プロジェクトに着手した企業家の社会及び事業に対しての哲学、情熱は無論であるが、ここに至るまでの人との出会い→交流→連携→協業→共感があつての集大成であろう。このことは、今の九州事業支部が必要としているファクターとも言えないだろうか。

日本の中で最もアジアに近く、経済・文化など多面的交流の中核になりうる国際的な重要性を高めて来ている

九州にいて、私たちの事業支部が、時代要求についていけるか、正直なところ疑問であるが、本部との連携や他業界・会員相互との交流があれば、共存共栄は出来ると思う。

個の確立が組織の活性化につながることは言うまでもない。後輩のために入会を勧めてくれた恩師の広い心、また、JID 創設メンバーの創設魂は、ハウステンボスのそれとラップするものがある。それに気付いた己が、いかに小さいことか、恥ずかしい気持ちで一杯である。

悩むときは原点に帰れと言う。支部組織が形骸化しない土壌づくりのために会員相互の努力が必要と思う。総会終了後一緒に風呂に入り、裸のコミュニケーションが出来、それから爽快だった。

バリアフリーレジャーパーク 「長崎でてこいランド」見学

佐藤 栄次

5月17日～18日、JID九州事業支部総会の開催に伴って、長崎県諫早市のバリアフリーレジャーパーク「長崎でてこいランド」を一同で見学した。この「長崎でてこいランド」は、ハンディのある人も、ない人も、誰でも利用できるようにつくられたレジャー施設で、公的な資金援助を受けていないため、賛助会員の会費やカンパなどによって運営されている。「ひとりはおみんなのために、みんなはひとりのために」をスローガンに、'90年に開園以来、全国から毎年延べ15,000人が訪れるという。

「でてこい」の由来は、心身にハンディキャップを持つ人も、持たない人も、家や施設に閉じこもっていないで「でてこい!」と呼びかけ、そして「出て憩う」場となり、さらに、皆のふれあいの場となることを願って付けられたものだ。そして入場料の代わりに、楽しかった分のカンパを、帰る際にお願ひするというシステムになっている。

建物はログハウス風で、約30坪の杉板張のメインホールと、露天風呂付風呂場棟がある。宿泊できるメインホールは床に段差が無く、風呂場棟には、寝た姿勢で入れる浅い風呂や車椅子から楽に移れる脱衣場・リフトなど、どんな人にも温泉気分を味わってほしいという配慮

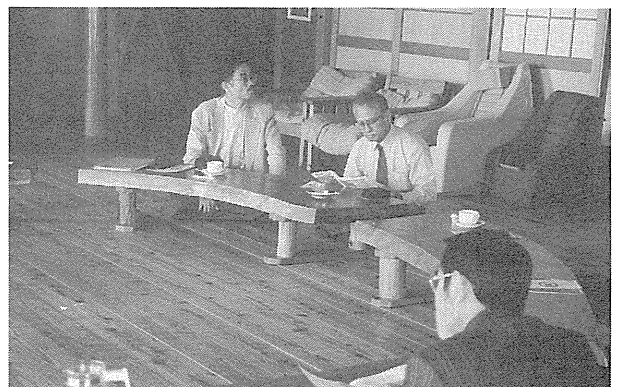
が感じられる。

中でも私が一番感心したのがトイレだ。ここには2種類のトイレがあり、1つは車椅子用のトイレ。広いスペースに手摺りが付いていて、健常者もここを使う。そしてもう1つのトイレは、這って行くためのトイレだ。上半身が自由な人は、自分の力で這って行き、自分の力で座れるように、便器が床に埋め込んであり、足を下ろす部分が掘り下げてある。何でもない工夫なのだが、そのことで確実に1人で用をたすことができるならば、これが本当のバリアフリーだ。本当の福祉とはこういうことなのだった。

決して最新式の豪華な設備が並んでいるわけでもないが、ここは障害者にとって本当に必要なものがある所だ。そしてそれは、ハードだけでなく、ソフトつまり受け入れる側の精神にこそ言えることだと思う。365日、24時間、いつでもでてこい!と言える許容量の大きさは、公的な補助を受けていないからこそ、実現可能な部分でもある。ハンディがある人もない人も、高齢者も子供も混ぜこぜになって一日を過ごせる所はまだまだ少ない。この「長崎でてこいランド」は、ハードにもソフトにも、バリアフリーの精神が生かされている数少ない施設であろう。



ログハウス風の「長崎でてこいランド」

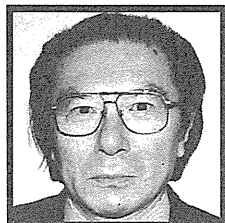


床座のホールで施設の説明を聞く参加会員

浅田弘之さんを悼む

(財)国際デザイン交流協会 巽 正和

去る4月7日の夕刻、1年たらずの闘病の末、わが親友浅田弘之君（通称アサヤン）はリンパ腺腫で亡くなりました。享年60才。



昨年7月、高島屋を定年退職し、しばらく休養の後は、第2の人生を教職の道で過ごすべく準備中でした。また、今春大学卒業の3人目のお子様も、早くから就職が内定し、アサヤンの病気の進行が早過ぎたこと以外は、全てが順調であった。本人もこの病気がガンであることは知っていて、見舞いに訪れた私に「たつみ、ガン保険には入っておけよ、入院費用を心配せんでもええ。」などと笑っていました。

思えばアサヤンとは40年にも及ぶつき合いでした。昭和32年に京都工芸繊維大学・意匠工芸学科に入った26名の中で、彼が常に名簿の1番（成績順ではなく、50音順）であったことや、持ち前の人の良さ、浪人2年の兄貴の貫禄などで、いつの間にかクラス幹事に就任していました。その後40年、クラスの冠婚葬祭は全てアサヤンの取り仕切るところとなりました。昨夏、アサヤンにちょっと代ってほしいと頼まれて、クラス幹事になった私の初仕事は、先日、アサヤンの霊前で弔辞を読むこととなりました。

今日、人生は80年と言われています。その80年を4季に例えるなら、大学卒業が春の終わり、会社の定年は秋は終わりに当たります。アサヤンは高島屋の仕事中心にインテリア・デザインの分野で、猛烈な夏から実りの秋へと、順調に成果をあげて来たと思います。そして秋の収穫をバックに、ご家族とともに楽しい冬を過ごそうとしていた矢先の終幕でした。若いのに残念と思う一方、どこかアサヤンらしい幕の引き方に思えて仕方ありません。ご冥福を心からお祈りいたします。

上辻謹一さんを悼む

名誉会員 川崎 浩

大切にしまっておいた当協会大阪支部発足の案内状（昭34・5・27）の発起人は上辻謹一で始まる10人である。そして、岡村・斉藤（石川）・種村の諸氏は既に故人となった。



研究会や見学会には必ず出てこられた上辻さんのことをいまでも思い出す。口数は少ないが「ロイドメガネ」でいつもニコニコしておられた。

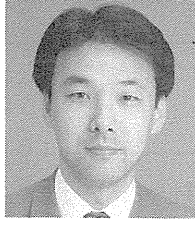
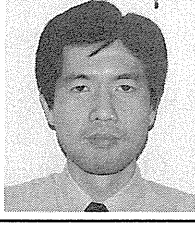
勤め先が同じ百貨店でも上辻さんは電鉄系（阪急）、私は都心型（大丸）と違ってしたが、同業の誼でなんでも腹藏なく話し合えた。阪急との関係か東宝系の劇場のインテリアの仕事のことなど、珍しい話も聞くことができた。また、昭和31年に大阪工業大学の建築科を卒業され、勤めの後の年配の5年間の勉強には頭の下る思いがする（38才）。

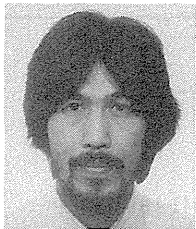
大正7年（1918）大阪生まれ、昭和11年大阪府立西野田工業学校卒、同年阪急電鉄入社・百貨店部門の設計室勤務、昭和53年（1978）60才の定年まで42年の会社勤めということになる。その後は、府立守口高等職業訓練校、創造社学園専門学校などで後進の指導にあたっておられた。

平成9年5月1日歿 79才 私より4才年嵩である。

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

- 新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしく願いいたします。
- 正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
つし もと たつ お 辻 本 達 男 会員番号 1141 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	T.TSUJIMOTO & DAUGHTERS, INC. 104 FRANKLIN ST.,N.Y.C.10013 USA TEL 212-343-2930, 800-475-5862 FAX 212-941-9131 21 WARREN PLACE BROOKLYN N.Y.11201 USA TEL 1-718-852-9002 FAX 1-212-941-9131 栢原 秀榮・荒木 貞宣
たけ うち くみ こ 竹 内 久美子 会員番号 1142 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	東急ホーム(株) 東京都渋谷区道玄坂1-21-14 POD ビル 〒150 TEL 03-3462-1209 FAX 03-3496-2187 神奈川県川崎市多摩区宿河原2-30-8、302 〒214 TEL・FAX 044-932-1059 長岡 貞夫・飯田 公久
いけ だ かず のぶ 池 田 和 修 会員番号 1143 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(有)アルグレイン 東京都町田市金森309-1 グレートヒル金森104 〒194 TEL 0427-28-9745 FAX 0427-28-9746 東京都町田市金森309-1 グレートヒル金森104 〒194 TEL 0427-39-9530 FAX 0427-28-9746 北原 進・畑中 弘
うえ まつ あき こ 植 松 暉 子 会員番号 1144 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	大阪産業大学 工学部 環境デザイン学科 大阪府大東市中垣内3-1-1 〒574 TEL 0720-75-3001 FAX 0720-70-7857 大阪府豊中市新千里東町2-4-D7-304 〒565 TEL・FAX 06-832-1886 山村 悟・夏原 晃子
とく ひさ ゆたか 徳 久 豊 会員番号 1145 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)博多大丸 福岡県福岡市中央区天神1-4-1 〒810 TEL 092-712-3461 FAX 092-733-9213 福岡県福岡市城南区友丘6-12-11 〒814-01 TEL 092-871-1378 溝口 新・飯田 一博

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
まる や よし まさ 丸 谷 芳 正 会員番号 1146 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	設計工房 M and M 神奈川県津久井郡津久井町中野457-1 〒220-02 TEL・FAX 0427-84-8061 同 上 小田原 健・岡部 史子
おお たき まさ はる 大 滝 正 明 会員番号 1147 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	デザイン HAUS, CO. 静岡県清水市幸町 10-11 〒424 TEL 0543-35-6038 FAX 0543-34-2003 同 上 寺原 芳彦・森谷 延周
なか にし た み こ 仲 西 多 美 子 会員番号 1148 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)クリスタル クロス 大阪府大阪市中央区備後町2-4-10 〒541 TEL 06-201-3400 FAX 06-201-3674 兵庫県川辺郡猪名川町上阿古谷字堂ノ下536 〒666-02 TEL 0727-66-0740 夏原 晃子・山口 道夫

● 賛助会員

会 員 名		住所・電話及び担当者
関西ビジネスインフォメーション(株) 大阪ガスインテリアデザインスクール 会員番号 3160	住 所 担 当 者 紹 介 者	大阪府大阪市中央区備後町3-6-14 備後町オキビル6F 〒541 TEL 06-262-4089 FAX 06-262-7202 稲岡 葉子 小宮 容一
岩出建設(株) 会員番号 3161	住 所 担 当 者 紹 介 者	大阪府岸和田市並松町1番5号 〒596 TEL 0724-39-4501 FAX 0724-39-8088 技術本部 次長 岩出 和哲 夏原 晃子

●本部事務局の夏季休暇（予定）

来る8月12日(火)～15日(金)を夏季休暇とさせていただきます。ご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

(本部事務局)

[会 員 の 異 動]

● ご面倒でも、1997～1998年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。

● 正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
木 村 慎 一 (名誉 P 33)	自宅住居表示 電話	大阪府枚方市桜丘町45番2-1107号 TEL 0720-98-3382
相 澤 晴 夫 (関東 P 45)	勤務先移転	東京都渋谷区恵比寿西1-34-15 エル代官山1401 〒150 TEL 03-3476-2416 FAX 03-3476-0310
大 槻 圭 子 (関東 P 59)	自宅移転	東京都豊島区上池袋4-10-8-907 〒170 TEL・FAX 03-3949-3075
小 坂 希八郎 (関東 P 73)	勤務先 自宅 e-mail	(株)日建スペースデザイン退職 TEL・FAX 045-713-7712 isoc@green.ocn.ne.jp
佐 藤 雅 樹 (関東 P 80)	勤務先 部署 自宅	ヤマハ(株)音楽企画プロジェクト 東京都港区高輪2-17-11 〒108 TEL 03-5488-6703 FAX 03-5488-5065 東京都世田谷区松原5-56-10-102 〒156 TEL 03-3322-9122
須 田 佐和子 (関東 P 87)	自宅	千葉県市川市南八幡4-18-18-304 〒272 TEL・FAX 決まり次第掲載致します。
谷 本 邦 彦 (関東 P 95)	自宅移転	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条48 〒408 TEL 0551-32-7192
中 曾 雄 二 (関東 P101)	勤務先移転	東京都渋谷区猿楽町5-14 エル代官山103 〒150 TEL. FAX 変更なし
藤 木 修 (関東 P113)	勤務先移転	埼玉県浦和市高砂2-13-17 浦和商工ビル別館4F 〒336 TEL. FAX 変更なし
松 原 伸 介 (関東 P119)	支部移動 事務所新設 自宅	関東⇒関西 (株)アルテ研究所 大阪府大阪市北区鶴野町1-5 阪急13-D 〒530 TEL・FAX 06-371-2436 兵庫県川西市緑台1-6-29 〒666-01 TEL. FAX 0727-93-5979
大 橋 義 博 (中部 P139)	自宅移転	愛知県愛知郡長久手町杵ヶ池403-1 〒480-11 TEL. FAX 変更なし
木 辺 智 子 (中部 P141)	勤務先	東洋サービス(株)デザインセンターフレスト 愛知県名古屋市市中川区山王1-2-30 〒454 TEL 052-332-2711 FAX 052-323-1832
小 川 千賀子 (関西 P157)	勤務先移転	兵庫県神戸市中央区東川崎町1-2-2 HDC 神戸7F 〒650 TEL 078-366-2760
野 原 建 広 (関西 P169)	自宅移転	兵庫県神戸市垂水区本多間4-7-12 〒655 TEL 078-786-1735

● 賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
(株)アダル (賛助 P194)	担当者	営業本部 本部長 岩崎 元成
ウインドウファッション(株) (賛助 P196)	社名変更	SJC (エスジェイシー) ブラインド株式会社
清水建設(株)設計本部 (賛助 P200)	担当者	デザインセンター 所長 加野 裕資
東リ(株) (賛助 P207)	移転 担当者	東京都港区東新橋2-10-4 東リ東京ビル 〒105 TEL 03-5403-2067 FAX 03-5403-2092 吉村 裕

● ご面倒でも、1997～1998年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。

サー・テレンス・コンランからの提案 暮らしにもっとデザインを

リビングデザインセンター OZONE 3周年特別企画展

1997年6月28日(土)～8月3日(日)

〈水曜日休館〉10:30～18:30

会場＝新宿・リビングデザインセンター OZONE

暮らしの様々な場面に「デザイン」を取入れていこうを基本テーマにして、1994年のオープン以来、「リビングデザインセンター OZONE」では、「リビングデザイン」を提唱し、数多くのイベントやセミナーを実施してきました。

一方、私たち JID も、同時期ここに「場」を移し、「日本の木の椅子展」「デザイナーズエイド」など、様々な接点を得ることができました。

そしてこの 7 月 OZONE は、3 周年特別企画展として、英国の著名デザイナー、コンラン卿の全面協力による「暮らしにもっとデザインを～サー・テレンス・コンランからの提案」を開催します。

メイン会場は、6 つのゾーンに分けられ、暮らしを快適にする 20 の知恵を、来場者が体験できるよう、国内外の 200 点にも及ぶ優れたプロダクツや写真、映像

などで展示構成されます。

私たちの知るコンラン卿の考え方や視点を確かめる良い機会になるかと思われますので、ぜひ、ご覧ください。(事務局長 森谷延周)

● 6 つのゾーン

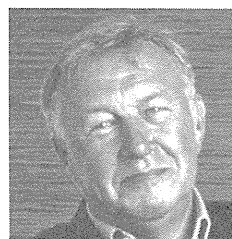
1. 感性とデザイン
2. いろ・かたち
3. 伝統と流行
4. 必要性とテクノロジー
5. シーンとデザイン
6. 行動とデザイン

ほかに、エントランスゾーン「10 のメッセージ」として、リビングデザインに関する 10 の哲学を紹介。

〈サー・テレンス・コンラン〉

英国の著名なデザイナー

「ザ・コンランショップ」は、彼の優れた選択眼とセンスにより創設され、世界 5 都市で展開する人気のホームファニッシングショップ。デザイン活動の他、レ



ストランなどのフード事業や著作活動も行っている。そのデザイン分野における功績を評価されエリザベス女王より SIR の称号を授与された。

1997/5～6

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (1997 年通巻 197 号) 1997 年 6 月 30 日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／泉 修二

〒160 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集／JID 本部事務局

印刷所／有限会社 コーエイ企画